

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	香川県
-------	-----

学校の概要（平成 15 年 4 月現在）

学校名	丸亀市立城辰小学校								
学年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	3	15	28
児童数	75	71	74	63	68	54	9	414	

研究の概要

1. 研究主題

基礎・基本の確実な定着を図る学習指導のあり方 ～算数科における少人数授業を核にして～

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・全学年，算数科において少人数授業を実施する。 ・子供の理解度に差が出やすい教科であるとともに，平成 14 年，平成 15 年に実施した県の学習状況調査の結果より，基礎学力の定着を図るため。
--

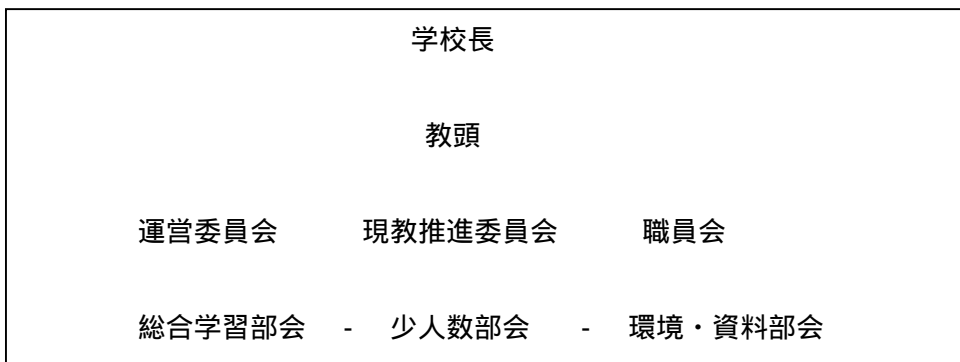
(2) 年次ごとの計画

平成 15 年 度	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数授業におけるより効果的な指導法 ・ 基礎的・基本的事項の定着と自己学習力の育成を図るための指導法の工夫改善 <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数授業により，児童のよさや可能性を伸ばし，より個に応じた学習指導をしていくための指導法を探っていく。 ・ きめ細かな指導により，わかる授業で基礎・基本の定着を図るとともに，算数的活動や繰り返しの練習・振り返り学習などを効果的に取り入れ，基礎・基本の定着を図る。 <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数授業における効果的な指導法や評価方法の模索を図る。 <p style="margin-left: 20px;">より個に応じた学習指導をしていくための指導法や授業形態，評価方法，評価の時期などの研究を進める。</p> <p style="margin-left: 20px;">校内で少人数授業の公開を年間で各学年 1 回はする。その際，各授業における主張点や授業の成果・課題などを明らかにし，研究の積み上げを図る。</p> <p style="margin-left: 40px;">5 月 - 2 年 ，6 月 - 6 年 ，7 月 - 4 年 ，11 月 - 5 年 ，1 月 - 1 年 ， 2 月 - 3 年</p>
--------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的・基本的事項の徹底と、自己学習力の育成を図るための指導法の工夫改善を図る。 県の学習状況調査や県版テストの分析，計算大会の実施などにより児童のつまずきを見つけ，指導に役立てる。 個にあった教材・教具の開発や算数的活動・ITの活用により，学習内容の理解に役立てる。 毎朝の10分間ドリルの活用内容や活用の仕方について研究を進め，基礎・基本の定着を図る。
--	---

平成16年度	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数指導におけるより効果的な指導法 ・ 基礎的・基本的事項の定着と自己学習力の育成を図るための指導法の工夫改善 <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 継続して少人数授業を実施し，児童のよさや可能性を伸ばし，より個に応じた学習指導をしていくための指導法を探る。 ・ きめ細かな指導により，わかる授業で基礎・基本の定着を図るとともに，表現力を身につけ学び合うなかから学習理解を深めるとともに，学習内容の定着を図る。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県の学習状況調査やCRT・県版のテスト・計算大会の結果の分析をし，つまずきを見つけるとともに，つけなければいけない力を研究していく。 ・ 表現力を身につけ，友だちとの学び合いを大切にしたい指導法を探る。 ・ 朝のドリルの時間や基礎学力の定着を図る時間を設定し，繰り返しの練習や振り返り学習を取り入れての基礎・基本の徹底の仕方を探る。 ・ 自己評価力を身につけさせ，学習意欲の向上を図る。
--------	---

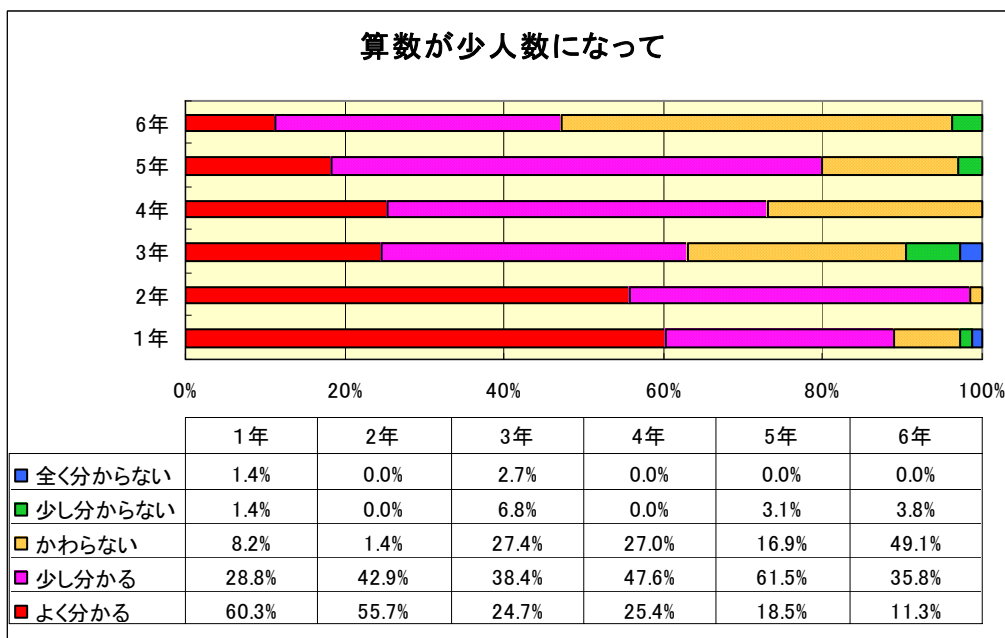
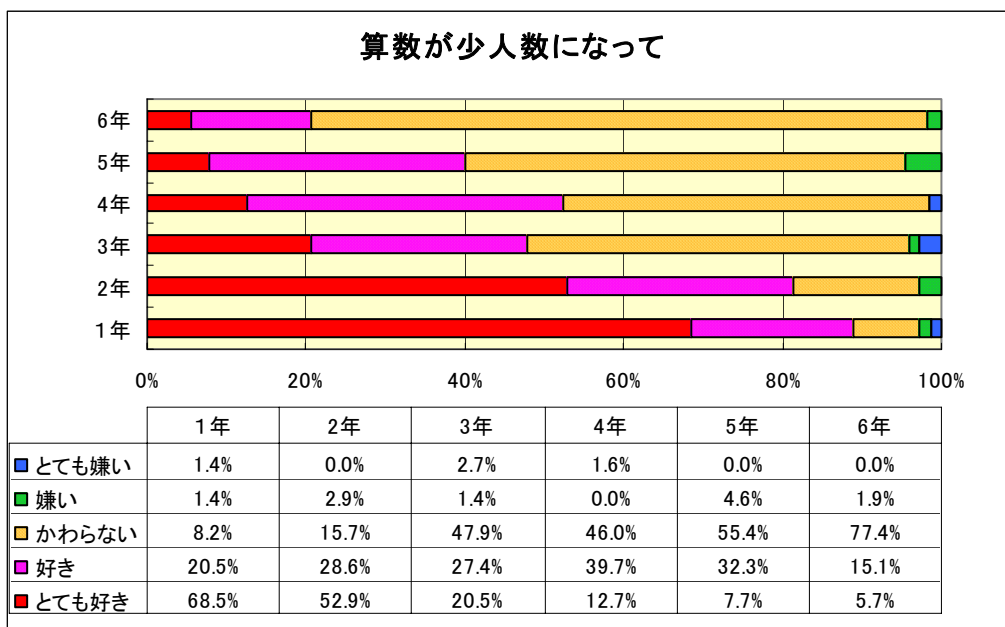
(3) 研究推進体制



平成 15 年度の研究の成果及び今後の課題

1 . 研究の成果

1 年間算数科において全学年少人数授業を実施してきた。そこで、全学年を対象に少人数授業についてのアンケートをとり、その結果をまとめてみた。



高学年になるにつれて、「算数が好き」の割合が低くなるものの、「嫌い」の割合は全学年を通じてとても低く、「とても嫌い」の項目は2, 5, 6年生には見られなかった。

同じように高学年になるにつれて、「よく分かる」の割合が低くなるものの、「少し分からない」の割合はとても低く、「全く分からない」の項目は2, 4, 5, 6年生には見られなかった。

これは、まだ学習理解が十分でない児童もいるが、少人数授業をすることによってきめ細かな指導をすることができ、一人一人が分かった、できたという充実感が味わえているからではないかと考えられる。

校内で少人数授業の公開を本年度は各学年 1 回実施してきた。その研究授業ごとに成果と課題についてまとめてきている。

<例> 6年西組 - 「計算の見積もり」(6月25日) 1時間目...T・T, 2~8時間目...習熟度別編成

- ・じっくりコース(11名)具体的な場面を設定し、見積もりの目的やよさを理解させながら、積や商の見積もり計算の定着を図っていく単元構成。(学級担任)
- ・どんどんコース(16名)既習の和・差の見積もりの考え方を思い出させながら、積や商の見積もりの仕方を自ら見出していく発展的な内容を扱う単元構成。(少人数担当)
- ・コース選択...事前テストを実施し、子どもと保護者、教師の三者の相談のもと、コース選択ができるよう配慮する。
- ・表現力育成・人とかかわる力の育成...答えだけでなく、思考の過程を友だちに説明する場を設定する。また、終末でも、自分が解いた補充問題の横に、自分なりの言葉で見積もりのよさをまとめていく場を設定する。
- ・自己評価力育成...自己評価カードを継続して作成していくなかで、学習の仕方や学習した内容について気づいていけるようにする。また、学習の達成程度を認識させ、自信をもたせたり、課題をとらえさせたりして今後の学習の進め方について考えていけるようにする。
- ・成果と課題

事前テストや日常の実態から学習状況の把握が客観的にできていた。どこでつまづいているかが明確になると、手立ても具体的に考えていける。

少人数担当から学級担任への連絡がきめ細かくできていた。(少人数連絡ノートの作成)

城辰小学校の具体的な場面での問題を提示すると子どもは喜んでいて、生活に結びつく算数学習を目指していきたい。

コース選択に当たっては、子どもや保護者の連携のもと、よく考えられていた。今後、子どもの学習の様子など気軽にどんどん知らせていくとよい。

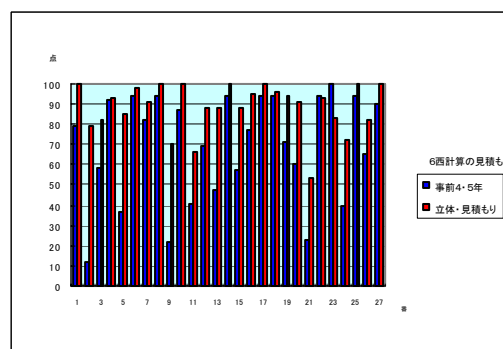
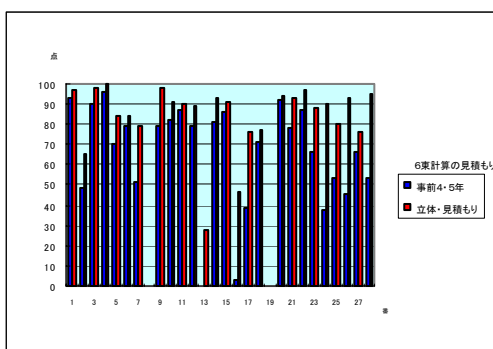
つまづいている子どもに、前学年の内容のヒントコーナーがあるとよかった。学級担任がじっくりコースを担当するのが基本的に望ましいが、学習環境の面からは、少人数教室の方が前学年の掲示物もあるので、じっくりコースにはよい。

じっくりコースとどんどんコースの交流も、今後考えていきたい。お互いどんな学習をしているのかわらせ、じっくりコースの子どもがどんどんコースの問題にチャレンジできるようにすると、これからのコース選択のヒントになったり、意欲が高まったりするのではないかな。



計算の見積もりの授業の様子

- ・ 6年生対象事前テスト「4年大きな数，5年計算の見積もり」と事後テスト「県版テスト立体・計算の見積もり」の結果



事前のテストで点の悪かった児童の伸びが特に大きいことが見て取れる。

計算大会の実施

9月から毎月1回，主に5・6年生を対象に朝のドリルの時間を活用して計算大会を実施してきている。学年当初の4月8日，9日に4～6年生に九九の81問(順不同)を4分間で，九九の逆のわり算81問(順不同)を5分間で実施したが，正答率がかなり低かった。

そこで，第1回は「あなあき九九・わり算・余りのあるわり算36問-5分間」，第2回は「2位数×1位数の筆算・2位数÷1位数の筆算16問-6分間」，第3回は「3位数+3位数の筆算・3位数-3位数の筆算24問-7分間」，第4回は「3位数÷1位数の筆算12問-5分間」，第5回は「小数のかけ算2位数までの筆算18問-6分間」で実施してきた(1月末現在)。満点にならない児童は朝のドリルの時間などを利用して繰り返しテストをし，計算力の向上を図ってきた。

その結果，第1回の計算テストでは5年生は最初14人不合格だったが現在は全員合格，6年生は最初16人不合格であったがあと4人を残すのみとなった。後の計算テストも同じように回数を重ねるごとに合格者が増え，確実に計算力は向上してきている。

2. 今後の課題

- 本校児童の学力の実態の分析とつきたい力の研究。
- 表現力をつけ，コミュニケーション能力を高める。
- 朝のドリルの時間の運用の仕方と基礎・基本の定着を図る時間の設定。
- 学び方の習得と自己評価力の育成により学習意欲の向上を図る。

学力等把握のための学校としての取り組み

香川県の学習状況調査

- ・目的 ... 基礎的・基本的な内容の定着状況を客観的に把握することと，今後の改善等を図るため。
- ・実施内容...教科は国語・算数・理科の3教科で3～6年生対象。
- ・時期 ... 平成14年10月1日-3～6年生。

平成15年4月16日 - 4・5年生, 18日 - 6年生。

平成16年4月予定(3~6年生)。

CRT(目標基準準拠検査)

- ・目的 ... 学力の定着の状況を確認し, これからの指導対策に利用するため。そして, 教師の指導の成果を確認し, 学校としての累積資料とするため。
- ・実施内容... 教科は算数のみで, 対象は1~6年生。
- ・時期 ... 平成16年1月。

県版算数テスト正誤表の作成

- ・目的 ... 正答率の悪い問題は, もう1度「確認プリント」として繰り返し練習し学習内容の定着を図るため。
- ・実施内容... 算数の県版テスト1~9で, 対象は5・6年生。
- ・時期 ... 単元の学習終了後。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

発表会の予定

- ・平成16年11月10日(水)頃に, 本校において公開授業と討議会をもつ予定。
対象は丸亀市内の小・中学校の教員で, 本校の取り組みについて広く意見を求めるため。

学校だより「辰の子だより」や学年だよりで, 学校の取り組みや考え, 少人数授業についての情報提供など広報に努める。

授業参観の機会を利用し, 少人数授業の公開を積極的に行う。

6月13日(金)5校時, 11月20日(木)3, 4校時, 11月21日(金)3, 4校時,
1月25日(日)2校時

ホームページによる研究実践の広報

- ・「学力向上フロンティアスクール」, 「城辰小学校少人数授業」

この1年間の研究の成果を年度末に冊子にまとめ, 校内外の普及に努める。

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	7~12学級		
	13~18学級	19~24学級		
	25学級以上			
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	